

事後評価報告書(日仏研究交流)

1. 研究課題名:「海洋脊索動物の構造と機能グライコムクス」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:名古屋大学 生物機能開発利用研究センター 教授 北島 健

2-2. フランス側研究代表者:リール第1大学 CNRS UMR8576

第1級研究アソシエーツ Yann Guerardel

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

対象生物および実験的アプローチ、相互の協力等についてかなり綿密に計画を練り、脊索動物の糖鎖の構造的多様性や関連遺伝子に関して多くの新知見を明らかにし、成果を上げた。この領域はまだ新しく、先駆的研究として今後の発展が期待できる。その一方で、本課題で掲げられた多くの研究テーマをグライコムクス研究の中で相互にどのように位置づけ、発展させていくのかがやや明確ではなく、今後の課題と考えられる。

(2)交流成果の評価について

日仏間でかなり緊密な情報および試料の交換を行いながら、多くの若手研究者、大学院生を積極的に参画させており、共同研究の視点からも、人材育成の視点からも評価できる。代表者のリーダーシップが発揮された結果と判断される。様々な研究機関から研究メンバーが参加している日本と比較すると仏側の参加機関数が2機関と、研究課題の広がりから考えると研究実施体制がやや小さい印象を受ける。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

非常に大きな研究組織による共同研究であったことを考えると、発表論文数がやや少ない点が惜しまれる。また、報告書に、例えば生物の種名の表記などについて細かいミスが多く、かなり雑な印象を受けた点が残念である。複合糖質の研究がこのプロジェクトを通じて今後さらにどのように発展していくのか、興味を持って見守りたい。